

受診期間等について通年での受診を検討して、子宮がん・乳がん検診への支援強化が必要と考える。そこで、乳がん検診は二年に一回の現状であるが、毎年実施できないか。

今後の受診者増のために広報活動もさらなる充実が必要と考えるが、検討する考えはないか伺いたい。

答弁 検診をすることで、早期発見・早期治療が重要である。そのため、二年に一回の検診ではなく、毎年実施の検診体制により死亡率の減少や医療費の抑制が図られることから、毎年実施したい。乳がん検診、子宮がん検診については、休日検診を取り入れるなどして、より受診しやすい体制づくりを進めていきたい。また、医師会とも協議して、病院検診期間の延長を図りたい。

地域格差の解消について



瀬尾 和敬

質問 ①「巡回バス・廃止」について危惧する声があるがどうか。②ブロードバンド・携帯電話・地上デジタル放送の地域格差解消は、

どのように展開されているか。今後の見直しはどうか。③山林・田畑・海岸などの環境保全に努めている過疎・辺地・甌島地域に、どのような「総合的な振興策」を考えているか。

答弁 ①巡回バスは、高齢者等地域住民の移動手段として大変重要である。巡回バスの利便性向上と効率的な運行を図るため、現在調査事業を行っている。一部において利用客が減り続けているため、路線等の見直しを進めているが、巡回バスの全面廃止は考えていない。②通信網の関係では、市内のADSL未提供地域については、二〇一〇年度までにブロードバンドゼロ地域の解消に向けた整備を行いたい。携帯電話等の不感地域の解消に向けても全力で取り組みたい。地上デジタル放送については、平成二十三年七月二十四日までは、平成二十三年七月二十四日までは現行のアナログ放送が終了しデジタル放送へ完全に移行することから、今後も国県及び通信事業者と協力し進めて行きたい。

過疎・辺地・甌島地域では、薩摩川内市版地域再生プログラムの検討を行い、諸課題の克服に向けた対策をしたい。過疎地域自立促進特別措置法については、みなし過疎地域の指定継続や適切な地域

指定要件の見直しを含めた新たな制度創設を国へ要望していきたい。甌島地域離島振興計画が平成十五年度から平成二十四年度までであり、平成二十一年度の下期基本計画の策定に向けて計画変更案を策定したい。



北部循環・高城温泉

**支所廃止の「提言」について
当局の考えは**



井上 勝博

質問 行政改革推進委員会は、「支

所廃止」「センター設置」を提言した。合併のときに、協議・策定した新市まちづくり計画は、合併後十年間の基本方針であり、その計画では、各旧町村の役場を総合支所として残すとある。①支所廃止の理由は何か。②センターとは何か。③「モデルケース」をつくって取り組みたいという発言の真意は。

答弁 財政節約効果の発揮と合併してよかったと実感できるという二つを両立したいとの思いからの提言あり、支所での地域振興が困難であるため支所を廃止するという提言ではない。したがって、この提言は、支所を廃止することが目的ではなく、住民サービスをどのように図るかを提案されたものであり、モデルケースを作って検討したいと考えている。モデルケースでは、センターに配置された職員が、地域が何を望んでいるかを直接住民と接しながら問題、課題を拾い上げること、地域振興のために何ができるのか模索すること、地区コミュニティ協議会とはどんなスタンスでかわっていくのかを実践しながら検証させたい。